

20 古典の知識

プリンター

国語のワーク3・4年生

後の□にある季語をなかま分けしましょう。

〔春の季語〕

陽炎 花 卒業 潮干狩り 梅
たんぽぽ うぐいす

〔夏の季語〕

蛙 卯の花 山びらき 紫陽花
ほたる たけのこ 夕立 つばめ 五月雨

蛙 かえる 陽炎 かげろう 卯の花 う はな 山びらき やま 紫陽花 あじさい

たけのこ ゆうだち 夕立 はな つばめ そつぎよう うぐいす
五月雨 さみだれ 潮干狩り しおひが 梅 うめ たんぽぽ ほたる

20 古典の知識

プリンター

国語のワーク3・4年生

後の□にある季語をなかま分けしましょう。本格的歳時記では「新年」は一つの季節としてあつかいますが、小学生では冬に入れます。

〔秋の季語〕

名月 身にしむ もも 稻かり とんぼ
天の川 野分

〔冬の季語〕

小春日和 枯野 時雨 こたつ 白鳥
雪だるま 初詣 ねぎ 師走

名月 めいげつ

小春日和 こはるびより

身にしむ みにしむ

枯野 かれの

時雨 しぐれ

こたつ

白鳥 はくちょう

もも

雪だるま ゆき

初詣 はつもうで

師走 しわす

稻かり いね

とんぼ

ねぎ

天の川 あまがわ

野分 のわき

20 古典の知識

プリント3

国語のワーク3・4年生

次の和歌は、春の七草と秋の七草をよんだものです。音読・なぞり書きをして、できれば覚えてみましょう。

読み人しらず
 せり なずな ごぎよう はこべら ほとけのざ
 すずな すずしろ これぞ七草

やまのうえのおくら
 山上憶良

はぎ はな おばな くずはな なでしこ はな
 萩の花 尾花 葛花 撫子の花
 おみなえし
 女郎花 また藤袴 朝顔の花
 ふじばかま あさがお はな

読み人しらず
 せりなずな ごぎようはこべら ほとけのざ
 すずなすずしろ これぞ七草

山上憶良

萩の花 尾花葛花 撫子の花
 女郎花 また藤袴 朝顔の花

20 古典の知識

プリント4

国語のワーク3・4年生

昔の月の言い方を一月から十二月までじゅんにならべました。それぞれの月の言い方に当てはまる「由来」を次のページから選んで書きましよう。

読み方

由来

- ① 睦月むつき (年の始めに親戚が集まって睦み合う月。)
- ② 如月ごとけい (衣更着、まだまだ寒いので衣を更に着る。)
- ③ 弥生やよい (草木が弥生い茂る月。)
- ④ 卯月うづき (卯の花が咲く月。)
- ⑤ 皐月さつき (早苗を植える月。)
- ⑥ 水無月みなづき (田に水を入れる月。水の月。)
- ⑦ 文月ふみづき (七夕に書道の上達を祈ってお願いを書く月。)
- ⑧ 葉月はづき (木の葉が落ちはじめの月。)
- ⑨ 長月ながつき (秋の夜長の月。)
- ⑩ 神無月かんなづき (神の月。全国の神様が出雲大社に集まる。)
- ⑪ 霜月しもつき (霜が降り始める月。)
- ⑫ 師走しわす (師(お坊さん)が走り回る月。)

月の読み方の由来

- 衣更着、きさらぎ まだまだ寒いので衣ころもを更さらに着きる月。
- 神しんの月。全国いずもの神様たいしやが出雲大社いづもたいしやに集まる月。
- 霜しもが降おり始める月。
- 草木くさきが弥ますます生おい茂しげる月。
- 木この葉はが落ちはじめる月。
- 年としの始めはじに親戚しんせきが集まって睦むつみ合あう月。
- 秋あきの夜長よながの月。
- 師し（お坊さん）ぼうが走り回る月。
- 卯うの花はなが咲さく月。
- 早苗さなえを植うえる月。
- 田たなに水みづを入れる月。水みづの月。
- 七夕たなばたに書道しょどうの上達じょうたつを祈いのってお願ねがいを書く月。